

令和元年度市政懇談会会議録

開催日時：令和元年5月13日（月） 午後6時00分～午後6時50分

開催場所：市民プラザ ホール

参加者：218人

市側出席者：五十嵐市長、吉田副市長、徳江教育長

大澤総務部長、細井企画部長、木暮財政部長、新井市民部長、浅見環境部長、
大山健康推進部長、須永福祉こども部長、町田長寿社会部長、栗田経済部長、
小暮建設部長、六本木都市計画部長、宮野公営事業部長、西川水道局長、
五十嵐消防長、高尾経営企画部長（市民病院）、斉藤会計管理者、下城議会事務局長、
光山監査委員事務局長、村井教育部長

1 開 会 司会進行（企画調整課長）

2 特別職の紹介・市職員（部長職）の紹介

3 市長あいさつ

皆様、こんばんは。ご紹介いただきました五十嵐でございます。

本日は皆様には大変お忙しい中、また、夜分でお疲れのところ市政懇談会にこのように多くの皆様にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。この市政懇談会でございますが、年度初めにこの一年伊勢崎市がどのような方向を目指していくか、いくつか具体的な事例を挙げながらご報告をさせていただき、それに対しまして皆様からご意見など伺いながら、より良い伊勢崎を目指してまいりたいという趣旨のもと開催をしているものでございます。それでは時間の限りもでございますので、さっそく重点政策の報告を始めさせていただきますと思いますが、ぜひスクリーンをご覧くださいながら話を聞いていただければありがたいと存じます。

4 重点政策の概要

(1) 令和元年度重点政策について <市長説明>

(2) 質疑応答 <特別職及び全部長職>

※質問及び回答の要旨を掲載しています。

◆交通安全対策について

【質問】

今日お聞きしたいのは、最近、自動車やバスの事故が相次いで発生していますので、安心、安全なまちづくりについて伺いたいと思います。

4月以降、池袋の人身事故や神戸市のバス事故、最近では滋賀県大津市での散歩中の園児の事故や県内でも南牧村のバスの転落事故がありました。そのうち大津市の事故は、ガードレールなどの対策がされていれば防げたのではないかと思います。

そこで私からの提案ですが、今回この事故を受けて伊勢崎市の通学路や散歩コース、マニュアルの見直しなどを行い、また、保育園などで散歩を実施するときには、保育士だけ

でなく警備員やSP、用務員なども同行し、警備服を着て誘導灯を持ち同行してもらうか、近くても遠くても園児バスを使用するようにするなど、園児を危険な道路にさらさない方策を行うことを提案したいと思います。

このような事故が起きないように対応や法整備をお願いできればと思います。

【回答】（市長）

ご提案大変ありがとうございました。大変大事なことだと思っております。

ご指摘のように、滋賀県大津市での事故については、本当に悲惨な事故でありまして、悲しいことに保育園児2人が亡くなっており、また、保育園児や保育士の併せて13人が重軽傷を負うという大変痛ましい事故であります。こうしたことが二度と起きてはならないと思っております。

交通安全対策について、本市においては年度が始まる前に全ての学校で通学路の点検を行っております。その中で、可能な場所についてはガードパイプを延長1,600mほど設置させていただき、子どもたちの安全を確保したというようなケースもございます。

道路規制の関係であります。道路については、国道や県道、市町村道がございます。それぞれが点検を行う義務がありますけれども、大津市での交差点については、ガードレールがあれば防げたのではないかとことも言われておりますし、市としてもしっかりと市道の調査をさせていただき、また、県道、国道につきましても必要な箇所がありましたら、関係機関に相談させていただくなど、一つ一つチェックをしながら安全確保を図ってまいりたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

◆障害者の雇用問題について

【質問】

私は、社会福祉士事務所を経営しております。障害者のご家族のご相談などもお聞きする機会があります。雇用については人手不足と言われておりますが、障害者においては然したる進展がないということもあり、農福連携が進められているということも言われています。農業は障害者にとって最も適切な職場ではないかという考えもありますので、農福連携について伺いたいのですが、伊勢崎市では今後そのようなお考えがあるのか伺いたいと思います。

【回答】（経済部長）

ご質問ありがとうございます。

現在、農業に特化した対策としては伊勢崎市では行っておりませんが、障害者の雇用を促進するという事で市内の企業にチラシを配布するなどしております。農業についても、今後同様に周知していきたいと考えておりますし、その他にも検討してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【回答】（市長）

補足をさせていただきますが、ご指摘いただきました農福連携については、以前からよく指摘されているものと私も認識しております。、その中で、障害者団体である愛のはぐるま会の施設である天啓園で、原木シイタケを栽培、商品化し、販売にまで繋げているというケースもございます。

しかし、これについては天啓園が独自で行っている事業でありまして、事業所との連携というところまでは進んでいないようであります。先ほど部長が回答しましたように、これから研究を進めていければと思いますので、よろしくお願いいたします。

◆本庄市、深谷市との広域連携について

【質問】

11日の上毛新聞に観光シャトルバスのことが記事に出ていましたが、費用対効果の面で境町駅から蚕のふるさと公園までの路線については休止し、渡船フェスタや記念イベント時には運行する予定と書いてありました。

私も不勉強なのですが、本庄市、深谷市及び伊勢崎市で今までもいろいろな連携を図っていると思いますが、最近では、一万円札の渋沢栄一氏が大きく報道され、本庄市では塙保己一氏などや他の名所旧跡があると思いますので、シャトルバスでこれらを繋ぎ合わせるような3市の構想などのお考えがあるのかお聞かせいただきたいと思います。

【回答】（市長）

ご質問の最初の境町駅から島村までの、観光シャトルバスですが、土曜、日曜及び祝日に限り運行してまいりましたが、当初は一定の利用がありました、5年が経過し利用者が1カ月で1人だけという時があり、1日の利用者がいない日もあるということで、費用も掛かることから、一旦休止させていただき、島村渡船フェスタなどのイベント開催時には運行していきたいと考えております。

それから、本庄市、深谷市との連携であります、ご指摘のとおり渋沢栄一氏は富岡製糸場の建設を発案したといわれております。この方が5年後には1万円札の顔になるということでまた関心も高まるのではないかと考えております。

これまでも、上武絹の道推進事業という中で、深谷市や本庄市などを含めて、広域的に連携して事業を実施しております。新しい観光ルートを作成したり、観光地図などを印刷し配布しております。この事業は、NPOが中心となり活動を続けていただいておりますが、これからも充実させていくべきだと思いますし、これから新たな道も開けるのではないかと考えておりますので、しっかり取り組んでまいります。よろしくお願いいたします。

◆産後ケア事業について

【質問】

福祉・地域医療の充実の保健対策の推進において、産後ケア事業の実施ということでお話がありましたが、この内容に関しての助産師の数についてですが、例えば、以前は群馬大学医学部の助産師コースで、希望者は全て助産師の課程を履修できるということでしたが、6年前から人数の制限と成績の制限ということで、助産師コースを受講できる人数が非常に少なくなっており、それから6年経っています。現在の伊勢崎市がこのプランを実行するにあたり、どのくらいの助産師の数を確保して、どれだけの出生数に対してフォローできると考えているのか聞かせていただきたいと思います。

【回答】健康推進部長

この産後ケア事業であります、出生後3か月未満の赤ちゃんがいる方で、家族などから支援、援助が受けられないお母さん方を対象としまして支援をしていくというような事

業でございます。初めてお子さんを産み、家族などから支援が受けられず孤立してしまい、育児に関する不安などで、社会問題にもなっている産後うつ、あるいは児童虐待にも繋がってしまうということから、助産師にお願いして訪問していただくというような事業でございます。この事業は、群馬県の助産師会に委託して行う事業ですが、本市の助産師は5人ほど登録されているという話を聞いています。その中で基本的には実施していただくということですが、不足した場合には、県の助産師会全体で対応していただくことになっております。

◇閉会あいさつ（市長）

皆様には本日、大変お忙しい中、また夜分でお疲れのところ、市政懇談会にご参加いただき、誠にありがとうございました。また、先ほど皆様から貴重なご意見やご提案、ご質問を頂戴して本当にありがとうございました。今の伊勢崎でございますが、一番の目標として、将来に渡って人口が減ることのない元気であり続ける伊勢崎を目指してまいります。そのためにも迎えました新しい年度でございますが、この年度におきましても皆様のご指導を引き続きいただきながら、元気なまちづくりを進めてまいりたいと考えておりますので、今後とも皆様のご理解、ご指導支援をよろしくお願い申し上げます。本日は誠にありがとうございました。

5 閉 会（企画調整課長）